2003年（第2回）

奄美自由大学

「**放擲する愛**　オルフェウスの闇へ」

9月12日（金）～14日（日）

IN

沖永良部島

総合テーマ：「**放擲する愛**　　オルフェウスの闇へ」

　隆起珊瑚礁の島は、地下に無数の筒状の空洞が走る、多孔的な小宇宙です。この、風と水とにほいの通路となる闇を伝って、自然は呼吸し、大地は動悸を刻み、人間の叡知もまた運ばれ、流転し、回帰してきました。島人の想像力のなかでは、地上への憧れが、地下への畏怖の心とするどく拮抗しています。

　2003年9月、南洋で発生するであろう颱風の凶暴な風をそのかたわらで受けとめながら、第2回「奄美自由大学」は、沖永良部島という、平坦でありながら珊瑚の闇を地下に孕んだ島を舞台に、ふたたび巡礼の道行きを企画しました。オルフェウス伝説を巡礼行の一つのモティーフに設定し、劇中劇のような仕掛けを用いながら、島が内蔵する筒状の闇を、参加者は一人一人ことなったかたちで体感してゆきます。

　冥界の妻ユーリディスを永遠に失ったオルフェウスは、放擲された愛の可能性によって自らの幻影の「統合」を解体して四肢分断の粒子として世界にあまねく散布されました。その歌い続けるオルフェウスの頭部をどこに発見し、詩と音楽の起源、放擲された愛の転位をいかなる瞬間に見いだすか‥‥。今回の島の巡礼者に課せられた潜在的なテーマはこのあたりにあります。

　詩の起源を吉増剛造氏が、音楽の起源を高橋悠治氏が、道行きのどこかでそっと語ってくれるでしょう。

開校日　2003年9月12日（金）～14日（日）　<詳しくは別紙のスケジュール参照>

集合場所　沖永良部島和泊港　9 月 12 日（金）午後 2 時 40 分

参加定員　島の内外からの参加者を合わせて約 40 名

（どなたでも応募できますが、定員になり次第しめきります）

参加講師　　吉増剛造（詩人）

高橋悠治（作曲家）

今福龍太（人類学者、奄美自由大学主宰）

参加費　自由大学参加費：　2，000円

滞在費・現地交通費（現地にて実費払い）：1泊5000〜7000円（朝食付、宿泊形態による）＋島内交通費

お願い　沖永良部島までの経路の選択、航空券の購入は、参加者の日程に合わせて各自でお願いいたします。9月12日の鹿児島経由の便にほとんど空席がないため、本州からの参加者は基本的に那覇経由のルートとなります。那覇からは船と飛行機の選択が可能ですが、飛行機は座席数に限りがあるので、時間に余裕のある方は船（フェリー）を奨めます。船は12日の早朝那覇港を出るので、前日11日夜までに那覇に到着している必要があります。どうしても12日朝からしか時間のとれない方は、鹿児島経由の便にあるわずかの残席を試してください。復路は、船利用でも14日中に東京へ帰着することが可能です。ただし、翌15日は沖永良部島の年に一度の大祭「敬老会」で、踊り・唄・民俗芸能などが盛大に行われる日です。日程に余裕のある方はこの日まで島に滞在されることを奨めます。なお、往復交通費の目安は、格安航空券の種類などによっても異なりますが、現時点（JAL「前売２１」利用）で以下の通りです。

プラン１　東京発着（那覇経由、船利用）約50，000円

（12日8：00那覇港よりフェリー「クイーンコーラル８」にて和泊港14：40着）

プラン２　東京発着（那覇経由、往路船、帰路飛行機利用）　約60，000円

（12日は上記と同。14日16：00にエアドルフィンの軽飛行機で那覇16：50着）

プラン３　東京発着（鹿児島経由）約100，000円

（12日、東京11：25発、鹿児島経由JAS/JAC便で沖永良部空港15：05着）

（参加申し込み時［電話・ファクス］に、希望するプラン・日程を事務局にお伝えください。航空券の購入方法や宿泊の追加予約その他細かい事項につき、アドバイスいたします。いずれにせよ、自由大学会期は連休に重なるため、航空券のご予約は一日でも早めに。格安の料金はすぐになくなります。）

参加登録先・問い合わせ先　　奄美自由大学事務局　濱田康作

電話：0997－53－0151　　FAX：0997－53－0169

内容についての問い合わせ先　　奄美自由大学主宰　今福龍太

電話・FAX：011－588－2672　　E-Mail: cafemaster@cafecreole.net

第２回　**奄美自由大学　スケジュール**

9 月 12 日

15：00　***斯界の御前風（グジンふう）***　14：40　**沖永良部島、和泊港**　（集合）。

（鹿児島経由での飛行機利用は　15：00 沖永良部空港着。

こちらにも迎えが行きます）

入島の儀　毛細な穴の詰まった「サンゴのプシケ（魂）」

（手作り）を主宰（旅長）が手渡す。

16：30？18：00　***予兆を浴びる***　**伊延集落**　ガジュマルのパサージュ、アダンのトンネルな

どをくぐり抜けながら、島の此岸と彼岸とを行き来する。

出花（デギ）集落の浜　沖永良部島を凝縮して示す巨大なモ

デル岩に触れ、その筒状の闇に耳をあてて音を聞く。

ワンジョ浜　トゥール墓の見学

18：30　歓迎の宴：　レストラン「茶庭」

宿舎：沖永良部フローラルホテル（0997・93・2111）

9 月 13 日

8：30　***泉のほとりの楽（詩）人***　**瀬利覚集落のジッキョヌホー**　（泉）のかたわらで

野外劇「南海のオルフェウス」　＊がはじまる。この仕掛けに

寄　り添いながら島の巡礼をはじめる。泉、始原の穴、水の口‥‥。

9：30　***越境する３弦***　島のジューテ（唄者）福山利明の弾く三絃を先頭に、音の霊力

によって力を得ながら、集落のマタ（魔物の棲む境界）を越えて

海岸へと移動。島では、夜、マタを越えられるのは唯一ジューテ

だといわれている。

10：00　***水の能舞台***　**瀬利覚の浜。**　サンゴの海が数万年かかってつくりあげた水の能舞

台にて、ユーリディスの唄の背後に波と海のとどろきを聴く。

11：00　***風を纏う境内***　**徳時の四並蔵神社**　。ガジュマルの錯綜した根。琉球からの風。オ

ルフェと「風の母」との対話。住吉小学校生徒の音による参加。

12：00～14：00　地元の手作り料理

14：30　***意識のにほい***　　**新納酒造工場** にて。琉球の詩人、高良勉による「ユリシーズ」の琉球語による朗読。匂いと音の場。オルフェとユーリディスの愛の消息を知る。

15：30　***７弦の闇、９弦の沈黙***　**昇龍洞** 。冥界下降。胎内巡り。筒の中へ。放擲される愛。ふいに訪れる７分間の闇、しばし間を置いて再び訪れる９分間の闇、その静寂の中をはらばい、飛翔する無数の音、そして導きサンシン。

17：30　***再生の放擲へ***　　**沖泊海岸** 。オルフェの最後。黄昏のなかで四肢分裂するオルフェ。海亀 の顕現。分裂した魂は時を越境し再生する。奄美自由大学も、また‥。

20：30　***夜なき（始まり）の座***　　**吉増剛造 ・高橋悠治** 両氏を囲んで詩と音楽の始まりをめぐる宴の座。

宿舎 ：沖永良部フローラルホテル

9 月 14 日

9：00　***淵で耳をすます***　　**余多川を遡る**　川が海へ落ちる淵で、水の音を聴く。余多集落のホー。上平川の、水が出現するあたり。余多川の源流。世名主の墓などを訪ね、淵（境目）の毛細な交わりを聴き嗅ぐ。

12：00　***３弦のミチオシエ***　海湊（そら港）でサンシンと手踊りで見送る。去り行く人も見送る人も、「海の別れの持つ余韻の記憶」で育まれた島人の繊細な内面を土産に旅立つ。

＊　野外巡礼劇「南海のオルフェウス」

今回の奄美自由大学、沖永良部学舎のために企画された巡礼型の即興野外パフォーマンス。自由大学の参加者の道行きの媒介となる音と動きの仕掛け。総合ディレクションは今福龍太。音楽監督に宮木朝子。オルフェウス に 中村達哉。 ほか 「南海 の オルフェウス」上演グループ　10 名。参加者の自発的な介入も可能。ユーリディスを求めて冥界へと下降し、所有することが不可能な愛の苛烈な真実をつかむ詩人＝音楽家オルフェウス。多くの文学作品・音楽・演劇・映画の霊感源となってきたこの「オルフェウス神話」を潜在的なモティーフとして、全島隆起珊瑚礁からなり、鍾乳洞や暗（ゴウ）などの無数の地下通路がはりめぐらされた沖永良部島を舞台に、現代人のなかにオルフィックな記憶を呼び覚ますことをめざす。